

## 1 学校教育目標

自他を敬愛し、光輝く未来を担う生徒の育成

## 2 重点目標

- (1) 自分らしさを大切にし、夢と希望の実現に向かって努力する生徒
- (2) 確かな学力、たくましい心身を、自ら鍛え伸ばす生徒
- (3) 仲間に真剣に関わり、みんなで力を合わせて課題を解決していく生徒

## 3 重点目標達成のための取組

※今年度も感染症対策のため、活動に制限をかけなければならない場面も多くあったが、昨年度の経験を活かし、その活動ができるようにするための工夫や、代案を立てることができた。

## 重点1

二大行事の体育大会と文化発表会は本校の教育活動の中では特別な存在であると考え。これは単なる行事ではなく、伝統として上級生から下級生に引き継がれ、この行事を通して東陽中生としての存在感や自覚を高めている。この二大行事を成功させることが、東陽中生としての自信と誇りを高めることに直結するので、それに向けてよりよい人間関係づくりや本気で取り組む姿勢をあらゆる場面を通して身につけさせるようにした。

## 重点2

本校の研修テーマ「主体的に学び関わる生徒の育成」のもとに、主体的にかかわり、見通しを持って課題解決できる授業づくりをすすめる研修を行ってきた。特に本年は、R1年度、R2年度ともにアンケートにおいて課題となった、「まちがいをおそれずに自分の考えを発言したり表現したりすることができる」意識の向上のため、言語活動の充実に力を入れて取り組んだ。また、授業の導入部分においては、教師が本時の目標を明確に示すことで、生徒が目的意識を持てるよう努力した。

## 重点3

「認める、励ます」を重視し、授業を始め、学校生活のさまざまな場面において、生徒一人ひとりにあわせて、できることから達成させ、成功体験を積み重ねる。また、定期テスト3日前から補充学習の時間を確保し、学習の基礎・基本の定着を全職員で重点的に行った。

## 4 生徒による「学校生活アンケート」の結果と考察

下の評価項目は、2学期末に全校生徒に実施した「学校生活アンケート」の質問である。生徒は、それぞれの項目について、

そう思う(4点) 大体そう思う(3点) あまりそう思わない(2点) そう思わない(1点)  
から1つを選択して回答した。それを、上のように4点を満点として数値化し、各項目の平均値を求めた。

R3の数値が、今年度2学期末に実施した本校生徒のアンケート結果である。また、R1・R2の数値は、それぞれ一昨年度・昨年度の2学期末における本校生徒のアンケート結果である。

(1) 重点1に対する評価

評価項目	R1	R2	R3
わたしは、理想とする生き方ややりたい仕事、「この人のようにになりたい」という思いをもっている。	3.3	3.1	3.0
わたしは、進んであいさつをしている。	3.4	3.4	3.0

(2021. 12 学校評価アンケート )

(2) 重点2に対する評価

評価項目	R1	R2	R3
先生は、わからないところや質問にも丁寧に答えてくれる。	3.3	3.5	3.4
あなたは、まちがいをおそれずに自分の考えを相手に伝えるように発言したり表現したりしている。	2.7	2.7	2.7
あなたは、学校での活動を通して成長していると感じている。		3.3	3.2

(2021. 12 学校評価アンケート )

(3) 重点3に対する評価

評価項目	R1	R2	R3
わたしには、嫌なことがあったときに、そばにいてくれる人がいる。	3.4	3.4	3.4
あなたには、学年や学級、部活動など、安心できる場所が1つはある。	3.3	3.4	3.4
先生は、あなたの良いところを認めてくれる。		3.5	3.3
あなたには、いいところがある。	3.2	3	3
あなたは、自分のことが好きである。		2.6	2.6

(2021. 12 学校評価アンケート )

(4) 参考

あなたは学校に行くのが楽しみである。	R3 年度	3.1
--------------------	-------	-----

5 自己評価に対する学校関係者評価の結果

(1) 重点1

- 体育大会において、昨年度は感染症予防の為、縦割りによる活動を中止。しかし、応援合戦においては、3年生が自学年のみで行い、後輩へ伝統をつなぎたいという思いで実施した。今年度においては、昨年度の思いを繋ぎつつ、さらに感染症対策を工夫し、3年生主体の応援に一部下級生も参加という形で行った。できないではなく、「どうすればできる」を生徒主体で考えていく姿を見ることができた。

職業体験やパパママ未来体験など、地域とつながり、自身の未来を考えるきっかけとなるような行事が感染症予防の為中止されていくなか、総合的な学習の時間や学活の時間を活用し、自身を振り返ったり、自分の適性を診断したりと、自己について深く考える機会をとることができた。

文化発表会においては、保護者の入れ替えや、練習隊形、密の回避などの対策を講じながら、ほぼ予定通り開催することができた。

- あいさつについて、マスク生活、不用意な会話の制限による影響は少なからずあらわれている。

(2) 重点2

- 教員が一人ひとりに丁寧に対応しようとしていることが、生徒にも伝わっている。
- まちがいをおそれずに自分の考えを発言表現していくことについては、変化が見られない。
- 4月の自分と比較し、現在の自分が成長していると感じている様子がうかがえる。

### (3) 重点3

- 教科、学活、特別活動を通して、生徒たちや教員らがお互いのことを認めたり、自分の良いところに気づく活動であったりと、数年前から継続的に取り組んでいる効果もあり、自己肯定感については高い数値を維持できている。
- 昨年度、課題としていた「自分のことがすき」という項目の数値の向上にはつなげられていない。
- 学校に行くことが楽しみと感じてもらえている。

## 6 学校評価の結果をふまえた今後の改善策

### (1) 重点1

- 行事を充実させるための手立てを確実にとりたい。今年度も、年度当初の予定通りというわけにはいかなかったが、感染症対策や代替となる活動を工夫することで、学びや経験を保障できたと思われる。来年度もどのように実施できるか不透明ではあるが、ただ元通りの形に戻すのではなく、代替でのメリットを十分に生かして、行事の大きな見直しの機会としていくことが必要である。

### (2) 重点2

- 感染症予防を考慮したうえでの、グループ活動や協働作業を行う授業への対応が後手に回っている。今後もこのような社会情勢が続く中、ICT 機器を有効に活用し、知識を習得していくことと、協働での学びを楽しんでいくことの両立を目指したい。
- 表現の場の設定が必要である。教科授業だけでなく、総合的な学習の時間や学活を活用して、発言の正誤にかかわらず表現することの有用性、誰もが安心して表現できる集団の雰囲気づくりも大切となる。
- 学校生活を通して、生徒たちにどう自らの成長を実感させていくのかについては、今後も変化を見ていく必要がある。

### (3) 重点3

- 多くがポジティブな経験から高まっていく自己肯定感を、自分の弱い部分を含めて尊いものと感じられる自尊感情へとつなげていく工夫は必要である。重点2の「間違いをおそれずに…」や、生徒自身が「成長感」を認知できることと、大きく関わっていると思われる。来年度の研修テーマのひとつに挙げて改善を図っていく。
- 学校は安心・安全に学ぶことができ、楽しく登校できることは、なによりも大切にしなければならない場所である。

## まとめ

令和1年度、令和2年度においては、コロナ対応、With コロナという中での2年間であったが、感染症対策や代替となる活動を工夫することで、これまでの学びを維持できた状態であると考える。来年度以降は、新たな活動の中で子どもたちの活動が充実し、さらに成長させていくための工夫や改善が課題となる。

令和4年2月25日に学校評議員会を開催し、本資料を基に学校の取組や課題について報告・相談をさせて頂いた。評議員の方たちからは、コロナ過においての学校の取組に十分にご理解を示して頂いた。また、年度途中から生徒、職員、保護者と学校全体で取り組んだ校則見直しプロジェクトに関しては、大きな評価を頂いた。